

# 読書のすゝめ

その12 H30 5/22

## 集団読書テキストについて

SLA (全国学校図書館協議会)

「集団読書」とは、読んで字のごとく、集団で同じ本を読む活動です。読書は心と頭を育てますが、好きなものばかりを食べていると栄養がかたより、健康が損なわれるように、内容のかたよる本ばかり読んでいると、心と頭は柔らかさやしなやかさを失ってしまいます。多様な本を読みます。多様なテーマ、また様々なジャンルの作品を読むことで、そのかたよりは補正されます。また、食わず嫌いだったことに気づいたり、新たな味を覚えるように、多様な本を読むことで、新たな発見をしたり、関心が呼び起こされ、自分の世界観が広がっていきます。集団で読書を行い、本の内容について語り合う集団読書活動は全国でも広がりをみせています。次の4冊について、それぞれ43冊ずつ用意があります。活用してください。



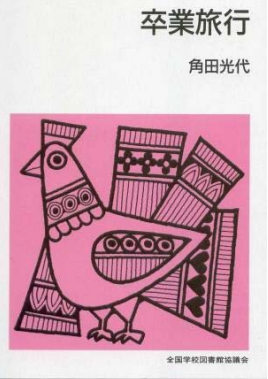
### 『オーロラを求めて』(星野道夫)



著者は、まだだれも撮ったことのないオーロラ撮影のために、厳冬のアラスカ山脈に入る。厳しい自然と対峙しながら、たった一人で何週間もチャンスを待ち続け、成功のときを迎えるまでを、清廉で温かな筆致で記す。

3年生は現代文の授業で星野さんの文を読んでいきますね。厳しい自然環境に直面しても「人間らしさ」を失わない星野道夫というすばらしい人に、多くの写真や文章を通して深く出会ってほしいと思います。

### 『卒業旅行』(角田光代)



短大の卒業旅行にネパールを訪れた私。いきいきと外国を楽しむ友人をよそに、慣れない土地も人も怖くてホテルに引きこもる自分が嫌になっていたある日、バックパッカーの男性と知り合つて……。見知らぬ世界へ飛び込む不安と、それを乗り越える心の成長をみずみずしく描く。

漠然とした不安や自分だけが取り残されていうような気持ちは、だれもが経験したことのある感情です。しかし、幾度となく新しい世界や壁に立ち向かわなければならぬ人生において、ヒラタさんの言葉は勇気を与えてくれます。

### 『沈黙』(村上春樹)



大沢は青木を殴ってしまった。最低の男ではあったが殴るべきではなかったと大沢は後悔した。数年が過ぎたが、青木はそのときの屈辱を忘れなかった。青木のわなにはめられた大沢はクラスから孤立し、追いつめられていく。

この物語を単なる「いじめ」の問題を描いた作品で終わらせないで欲しい。一個の存在として立ち、他者とコミュニケーションするためにどうしたらよいのか。つながり、関係とはどのようなものであるべきか、考えて欲しいのです。

### 『さがしもの』(角田光代)



死にゆく祖母から頼まれたさがしものは、一冊の本。どの本屋でも見つけれないまま時はすぎ、なおも探しつづける「私」のもとへ、祖母の幽霊が現れた……。本が結ぶ人の心、人生の不思議なめぐりあわせを優しく描く。

中学2年生であった主人公が、大人になるまでずっと切ることができずにいた一冊の本との縁。本によって展開されるこの物語に、自分自身の「本との物語」が生まれるように思えます。